追加資料

みよし高齢者福祉マップの見直しについて

現在のマップは、在宅介護支援センターが実態把握等で家庭訪問する際に活用することを前提に作成されたが、その後の改修により、事業所一覧や認知症ケアパス機能など機能追加し、多機能で構成されている。平成29年4月に在宅介護支援センターを地域包括支援センターへ機能強化を図ることから、地域包括支援センターが活用するように構成を見直す必要がある。これに合わせて、現在の多機能ツールをどのようにするかを検討する。

1　各ページの内容、機能、課題等について

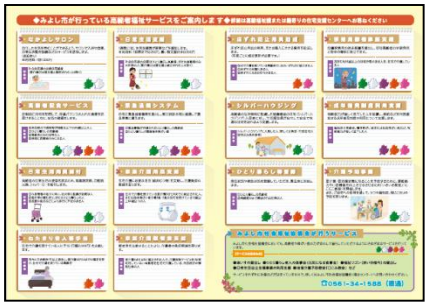
表紙

- 市役所及び各在宅介護支援センターの連絡先
- 在宅介護支援センターが実態把握等の際や本人が使うメモ欄
- 地域包括支援センターに機能強化するためこのページの見直しは必須

P1

- 認知症ケアパス機能
- 認知機能の程度を5つの機能に分類し、それを色分けして以後のページで各色のキューちゃんが各種事業に貼り付けている。認知機能別に使えるサービスを示している。

P2



- 市独自に行っている高齢者向けのサービスの一覧
- サービスの増減、内容の変更があれば内容変更が必要になる。
- 平成29年度から介護予防日常生活支援総合事業を開始するため、このページの見直しも必須である。
- 高齢者には、字が小さく見にくいという課題がある。

P3

- 介護保険サービスを使う前提となる申請から認定までの流れを説明するページであり、平成29年度から基本チェックリストによる流れを記載する必要があるため見直しは必須
- 別に介護保険制度を説明するパンフレットを使用しており、内容は同様になるようにしている。

地図

- 市の地図と介護保険事業所、医療機関の一覧、さらに所在地をマッピングしたページであり、事業所の改廃等により見直しは必須である。
- さんさんバスの路線図は好評であるが、時刻表がないという意見がある。
- 歯科医院や薬局についても記載のニーズはあるが、スペース等課題があり、マッピングに至っていない。

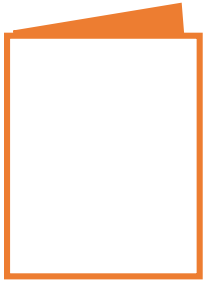
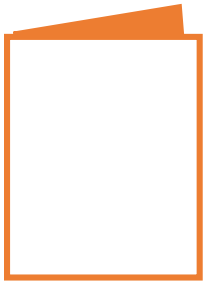
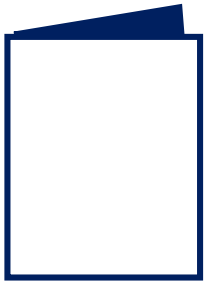
裏表紙

- 市が行っているサロンの一覧とみよし安心ネットの案内をするページだが、見直しが必須の事項は特段ない。

みよし高齢者福祉マップの見直しについて

2　見直し案について

見直し案として、①1冊にまとめて多機能冊子を作成する、②現在の多機能1冊形式から分冊する、分冊にあたっては、毎年内容を見直すことが必須のものと増産で対応できるもので整理する。①②に共通することとしては、事業所一覧は、各事業所の説明を増やす等の充実が考えられるが、その際は広告料を検討する、ことを基本的なこととして検討する。
補足事項として、豊田加茂医師会、豊田加茂歯科医師会、豊田加茂薬剤師会の情報については、在宅医療サポートセンターが毎年アンケート調査を行う予定であり、これを活用し、豊田市と同一の内容で公開できる体制の整備を進めることとしている。（各団体のホームページと市のホームページのリンク等）

	分冊構成案	メリット	デメリット
①	 ページ数を増やし、1冊にすべての情報が載るように構成する。	• この1冊あれば、ほとんどの情報が得られることとなり、市民にとっては非常にわかりやすい。 • 認知症ケアパスとしては、情報量が増え、充実することになる。	• 1冊の情報量が多いため、情報を探しにくいという捉える可能性がある。 • ページ数が多い冊子を毎年内容見直しすることは、作業も煩雑で、コストもかかる。
②	 表紙、P1、P2、裏表紙を認知症ケアパスとして整理し、作成する。  地図（事業所一覧を含む。）は、毎年必ず変更が生じるため、これをまとめる。 ※P3は介護保険を説明する冊子に記載があるためマップの冊子には掲載しない。	• 毎年内容の見直しが必要なものをまとめるため、費用面、作業面の効率化が図れる。 • 毎年内容を変えないものを作ることで、市民への情報提供の一貫性が担保できる。（コロコロ変えないでほしいという要望あり）	認知症ケアパスは、認知機能の容態に合わせて使えるサービス等を整理することとされているため、ケアパス機能の冊子とサービスの冊子が分かれてしまう。